



「学び」と「育ち」そして「地域」をつなぐ

京都市の学校運営協議会 ～平成の番組小学校づくり～

京都市教育委員会 学校指導課
小中一貫教育・学校運営企画担当



はじめに

- ◆はじめに
- ◆京都市の学校運営協議会の経緯
- ◆学校運営協議会とは？
- ◆京都市の学校運営協議会の特色
- ◆京都市の学校運営協議会の成果と課題
- ◆京都市の学校運営協議会の今後の方向性



はじめに

◆京都市立学校数（休校を除く）：275校園（平成24年度）

[市立学校・幼稚園の園児・児童・生徒数105,083人]

（学校数は24年度，園児・児童・生徒数は平成23年5月1日現在）

- ・京都市立幼稚園： 16園 [園児数： 1,026人]
- ・京都市立小学校： 170校 [児童数： 65,659人]
- ・京都市立中学校： 73校 [生徒数： 31,157人]
- ・京都市立高等学校： 9校 [生徒数： 6,221人]
- ・京都市立総合支援学校： 7校 [児童生徒数： 1,020人]

◆「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により，政令指定都市が行う事務

- ・府（県）費負担教職員の任免，給与の決定，休職及び懲戒に関する事務【**市立学校の教職員の人事**】
- ・府（県）費負担教職員の研修



はじめに

◆京都市の教育【歴史と伝統】

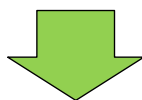
・竈金の精神

-町衆が「番組」とよばれる自治組織ごとに，竈のある家が竈の数に応じて，お金を出し合い，町内が協力し合った，住民自らの手による学校づくり。



・番組小学校

-学制発布前の明治2年の終わりには，64の「番組小学校」が設立。



「地域の子どもは地域で育てる」



はじめに

◆徹底した開かれた学校づくり

- ・ 学校支援ボランティア（のべ約3万人）
 - ・ 学校評議員制度の全校での導入（13年度）
 - ・ 学校評価システムの全校実施（15年度）
 - ・ 小中一貫教育で「学び」と「育ち」，「地域」をつなぐ（16年度～）
- ・ 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の設置拡大（16年度～）



京都市の学校運営協議会の経緯

◆「新しいタイプの学校運営の在り方」実践研究

【平成14年度】

- ・ 地域との連携のもと，「学校の裁量権の拡大」や「地域の学校運営への積極的な参画」などをテーマとした実践研究。

文部科学省指定

御所南小学校

【平成14年度】

京都市教育委員会指定

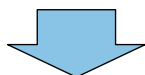
高倉小学校

【平成14年度】

京都御池中学校【平成15年度】

◆学校運営協議会が制度化【平成16年度】

- ・ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第47条の5



京都市において順次指定【平成16年度以降】



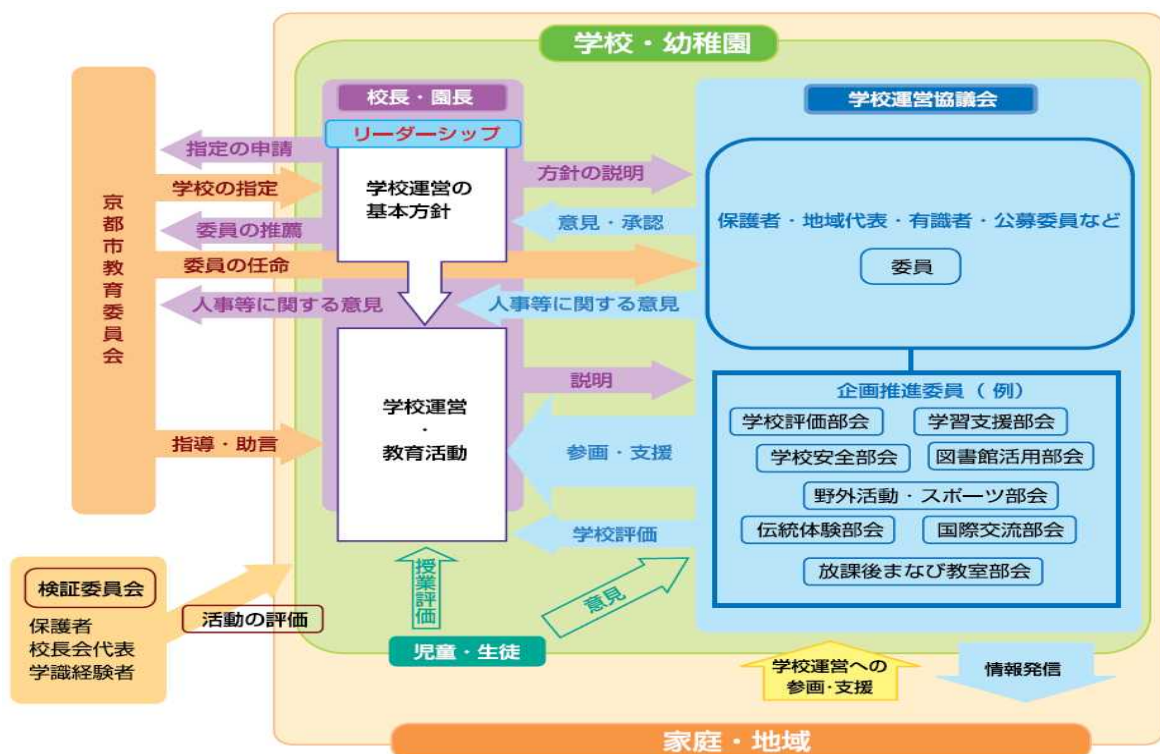
京都市の学校運営協議会の経緯

◆京都市の学校運営協議会の指定校数(H24.6.14)

校種	京都市の指定校数	京都市の学校に占める割合
幼稚園	8園	50.0%
小学校	141校	82.9%
中学校	29校	39.7%
総合支援学校	7校	100.0%
合計	185校・園	67.3%



京都市の学校運営協議会の特色





京都市の学校運営協議会の特色

◆ご意見番と応援団の機能が一体の制度設計

企画推進委員会 【学校の応援団】

- 「学校の応援団」として、学校運営協議会が学校支援活動を実施

学校関係者評価 【学校のご意見番】

- 「学校のご意見番（辛口の友人）」として学校の自己評価に対し評価



京都市の学校運営協議会の特色

◆その他の特色

教員公募制度

【教職員人事に関する意見】

- 教職員の採用に関する意見の実質化を図る教員公募制度の創設

校長の権限と責任の明確化

- 校長が学校運営のリーダーシップ取れる体制を担保



京都市の学校運営協議会の特色

◆企画推進委員会【学校の応援団】

- ・学校支援活動を行う企画推進委員会を設置。

【企画推進委員会の例】

- 学習支援部会
- 学校安全部会
- 学校図書館活用部会
- 伝統文化体験部会
- 放課後まなび教室部会 等



京都市の学校運営協議会の特色

◆学校関係者評価委員会【辛口の友人】

- ・学校運営協議会が組織して学校関係者評価を行う。
- ・自己評価結果に対する評価とともに、課題の改善策、地域・保護者の支援策を検討する。

【学校関係者評価の手順例】

- ①学校評価実施報告書の自己評価を理事会に提示
- ②理事会は学校の自己評価に対し意見（評価結果）
- ③学校運営協議会としての支援策を検討



京都市の学校運営協議会の特色

◆学校関係者評価委員会【辛口の友人】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	基礎・基本の徹底	学校評価アンケート 各種学力調査結果の分析	ここ数年の学力調査の結果からは、少しずつではあるが、着実に子どもたちの学力が向上していることが伺える。その一方で、アンケート結果からは、今までに引き続き「家庭学習習慣」の定着の低さが本校の最も大きな課題の一つとして浮かび上がっている。教職員の「学力向上」に対する意識は高揚しており、「読書活動」「授業改善」「家庭学習課題の工夫」等の具体的な改善策にも取り組んできたが、学校が一丸となってこの課題に取り組もうとする姿勢がより一層求められる。今年度、キャリア教育の観点から「卒業後の進路診断調査分析」に着手し、分析結果を地域・保護者に情報公開できたことは評価できる。	「家庭学習習慣の定着策」については、家庭を巻き込みながら主体的に学習できる効果的な課題の開発を、学校全体で研究しながら模索していききたい。同時に、生徒や保護者には家庭学習の具体的な取組の方法を説明していききたい。「授業改善」においては、生徒集団全体の育成を目標にした「活用型学習」「探究型学習」を展開していききたい。そのような学習活動を展開するために、年間を通して計画的に、教師の力量を高めるための取組を積極的に推進したい。「学力向上」が「死なない学校づくり・自立的な生徒育成」につながることを共通理解しながら、より一層研修を深め、実践を積み上げていききたい。
	授業改善	学校評価アンケート 授業研修・研究協議		
	家庭学習の充実	学校評価アンケート 課題設定・授業とのリンク		
	読書の習慣化	学校評価アンケート 読書活動		
2 豊かな心	規範意識の向上	学校評価アンケート 学校のきまり	ここ数年のアンケートの結果の比較からは、生徒の規範意識や自己有用感の高まりが確認できる。実際の学校生活の中でも、大半の生徒が学校のきまりを守り、落ち着いた学校生活が展開されている。一方で、●●●●中学校の生徒であることに誇りが持てるは3年生とも実現度が低い。ピア・サポート活動も、保幼小との連携の基、円滑に実施されているが、「3年生を学校のリーダーとして育てること」は実現度が低い。3年生をリーダーとした校内の望ましい生徒集団づくりや母校に誇りを持つて活動の展開など、「子どもたちの自尊心を高める」という課題に対応する教育活動が求められる。	生徒指導上の問題行動に対して、小さなことを見逃さずチームで丁寧に対応していく一方で、問題行動の予防教育活動により一層力を入れて取り組んでいききたい。ピアサポート活動では、活動の中で3年生を学校のリーダーとして育成する視点を大切にして取組を進めたい。また、社会や「困っていること」に対してどうサポートできるかを生徒たちが主体的に考えて実践できる場をつくりたい。今年度の●●●●スタンダード「あいさつ」に対する取組を継続しながら、来年度のスタンダード「自ら考えて判断し行動できる生徒の育成」に向けて、学校の教職員が自らもともに「発達段階に応じた適切な指示」が受けられるように、研修を深め実践していききたい。
	人権教育	学校評価アンケート 人権学習作文		
	豊かな心の育成	学校評価アンケート 道徳授業の充実		
	自己有用感の向上	学校評価アンケート ピアサポート事業の実施		
3 健やかな体	基本的な生活習慣の確立	学校評価アンケート 保健室利用状況	アンケートの結果からは、朝の調査結果と同様に、朝食の摂取および十分な睡眠時間の確保について、学年が上がる毎に「あまりできていない、できていない」と回答する生徒が多くなる。特に睡眠時間については、3年生だけではなく1・2年生についても「できていない」と回答する割合が増加しており、それに対応して、生活の乱れに起因する1・2年生の保健室利用率が増加している。学力向上の阻害要因としても大きく関わっていると考えられる子どもたちの基本的な生活習慣の確立を促すための働きかけが必要である。	基本的な生活習慣の確立については、地産地消食や学校だけでなく、保健室より等を通して、保護者への啓発・発信を努めていきたい。このような取組をさらに充実させていくことに加え、「●●●●スタンダード(保護者版)」の普及啓発活動を通して、保護者の意識改善を促していきたい。また、このような子どもたちの状況を地域との課題としてとらえ、保幼小と連携しながら生活習慣を向上させる取組を進めていききたい。子どもたちに対しては、生徒会保健室委員会活動等を通じて、基本的な生活習慣の大切さを学び考える場をつくっていききたい。
	体力の向上	学校評価アンケート 体育部活動の参加		
	食育の推進	学校評価アンケート 学校保健委員会		
4 学校・家庭・地域の連携	小中一貫教育の推進	学校評価アンケート 小中が連携する各取組	「開かれた学校づくり」に向けて多様な取組が開始し、大きな一歩を踏み出すことができた。「●●●●学校運営協議会」「学校評価活動」「小中一貫教育の推進」「●●●●スタンダード」「卒業後の進路診断調査」等である。これらの取組を丁寧に取り組んでいく一方で、「●●●●スタンダード」を今後の学校教育や家庭教育の中で最大限効果的に活用し子どもたちの成長に役立てていく。●●●●今年度の取組をさらに発展・継続させるための具体的な方策が望まれる。	現在、連携のための数多くの会議や組織がつけられているが、それらをさらに整理・統合し、より有効に機能する組織作りを努める。3校の校務分掌については、ある程度統一して協働しやすい組織をつくりたい。「学校支援活動」においては、来年度は特に「図書支援活動」「環境支援活動」の始動に向けた組織づくりを進めたい。「●●●●スタンダード」は、広報活動を工夫し、●●●●学区全体でその存在と価値を共有して、保護者の学校初任への参加を促すために学校からの情報発信を充実させるだけでなく、魅力のある参観内容をさらに工夫したい。
	参観・参加・活動	学校評価アンケート 参観・参加数、活動状況		
	情報発信の充実	学校評価アンケート 学校だより・HPの更新状況		
	家庭(PTA)連携の充実	学校評価アンケート PTA活動		

学校関係者評価(学校運営協議会)

評価結果	改善に向けた支援策
●●●●校区の課題を明らかにされ、小学校や中学校だけでなく、●●●●校区の教育機関と連携され、課題解決に向け、着実に一歩ずつ取組が展開されている。特に、あいさつする生徒も増えつつあることが実感される。最大の課題である家庭学習力の向上に向け、あらゆる情報をオープンにされ、開かれた学校づくりが進展していることを実感できる。特に子どもたちの学力についての状況も理解でき、その課題に向け小中3校の教職員が協働で取り組まれていることは、飛躍的な学校づくりに大きな成果を期待できる。	今年度、学校運営協議会が始動し始め、校区の教育の実態がよく理解でき、学校がめざす各取組に対し、支援できる体制づくりを考えてきた。地域・保護者に声かけをするだけでなく、次年度学校支援ボランティア組織がつけられるよう努力していききたい。



京都市の学校運営協議会の特色

◆学校関係者評価委員会【辛口の友人】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	基礎・基本の徹底	学校評価アンケート 各種学力調査結果の分析	ここ数年の学力調査の結果からは、少しずつではあるが、着実に子どもたちの学力が向上していることが伺える。その一方で、アンケート結果からは、今までに引き続き「家庭学習習慣」の定着の低さが本校の最も大きな課題の一つとして浮かび上がっている。教職員の「学力向上」に対する意識は高揚しており、「読書活動」「授業改善」「家庭学習課題の工夫」等の具体的な改善策にも取り組んできたが、学校が一丸となってこの課題に取り組もうとする姿勢がより一層求められる。今年度、キャリア教育の観点から「卒業後の進路診断調査分析」に着手し、分析結果を地域・保護者に情報公開できたことは評価できる。	「家庭学習習慣の定着策」については、家庭を巻き込みながら主体的に学習できる効果的な課題の開発を、学校全体で研究しながら模索していききたい。同時に、生徒や保護者には家庭学習の具体的な取組の方法を説明していききたい。「授業改善」においては、生徒集団全体の育成を目標にした「活用型学習」「探究型学習」を展開していききたい。そのような学習活動を展開するために、年間を通して計画的に、教師の力量を高めるための取組を積極的に推進したい。「学力向上」が「死なない学校づくり・自立的な生徒育成」につながることを共通理解しながら、より一層研修を深め、実践を積み上げていききたい。
	授業改善	学校評価アンケート 授業研修・研究協議		
	家庭学習の充実	学校評価アンケート 課題設定・授業とのリンク		
	読書の習慣化	学校評価アンケート 読書活動		
2 豊かな心	規範意識の向上	学校評価アンケート 学校のきまり	ここ数年のアンケートの結果の比較からは、生徒の規範意識や自己有用感の高まりが確認できる。実際の学校生活の中でも、大半の生徒が学校のきまりを守り、落ち着いた学校生活が展開されている。一方で、●●●●中学校の生徒であることに誇りが持てるは3年生とも実現度が低い。ピア・サポート活動も、保幼小との連携の基、円滑に実施されているが、「3年生を学校のリーダーとして育てること」は実現度が低い。3年生をリーダーとした校内の望ましい生徒集団づくりや母校に誇りを持つて活動の展開など、「子どもたちの自尊心を高める」という課題に対応する教育活動が求められる。	生徒指導上の問題行動に対して、小さなことを見逃さずチームで丁寧に対応していく一方で、問題行動の予防教育活動により一層力を入れて取り組んでいききたい。ピアサポート活動では、活動の中で3年生を学校のリーダーとして育成する視点を大切にして取組を進めたい。また、社会や「困っていること」に対してどうサポートできるかを生徒たちが主体的に考えて実践できる場をつくりたい。今年度の●●●●スタンダード「あいさつ」に対する取組を継続しながら、来年度のスタンダード「自ら考えて判断し行動できる生徒の育成」に向けて、学校の教職員が自らもともに「発達段階に応じた適切な指示」が受けられるように、研修を深め実践していききたい。
	人権教育	学校評価アンケート 人権学習作文		
	豊かな心の育成	学校評価アンケート 道徳授業の充実		
	自己有用感の向上	学校評価アンケート ピアサポート事業の実施		
3 健やかな体	基本的な生活習慣の確立	学校評価アンケート 保健室利用状況	アンケートの結果からは、朝の調査結果と同様に、朝食の摂取および十分な睡眠時間の確保について、学年が上がる毎に「あまりできていない、できていない」と回答する生徒が多くなる。特に睡眠時間については、3年生だけではなく1・2年生についても「できていない」と回答する割合が増加しており、それに対応して、生活の乱れに起因する1・2年生の保健室利用率が増加している。学力向上の阻害要因としても大きく関わっていると考えられる子どもたちの基本的な生活習慣の確立を促すための働きかけが必要である。	基本的な生活習慣の確立については、地産地消食や学校だけでなく、保健室より等を通して、保護者への啓発・発信を努めていきたい。このような取組をさらに充実させていくことに加え、「●●●●スタンダード(保護者版)」の普及啓発活動を通して、保護者の意識改善を促していきたい。また、このような子どもたちの状況を地域との課題としてとらえ、保幼小と連携しながら生活習慣を向上させる取組を進めていききたい。子どもたちに対しては、生徒会保健室委員会活動等を通じて、基本的な生活習慣の大切さを学び考える場をつくっていききたい。
	体力の向上	学校評価アンケート 体育部活動の参加		
	食育の推進	学校評価アンケート 学校保健委員会		
4 学校・家庭・地域の連携	小中一貫教育の推進	学校評価アンケート 小中が連携する各取組	「開かれた学校づくり」に向けて多様な取組が開始し、大きな一歩を踏み出すことができた。「●●●●学校運営協議会」「学校評価活動」「小中一貫教育の推進」「●●●●スタンダード」「卒業後の進路診断調査」等である。これらの取組を丁寧に取り組んでいく一方で、「●●●●スタンダード」を今後の学校教育や家庭教育の中で最大限効果的に活用し子どもたちの成長に役立てていく。●●●●今年度の取組をさらに発展・継続させるための具体的な方策が望まれる。	現在、連携のための数多くの会議や組織がつけられているが、それらをさらに整理・統合し、より有効に機能する組織作りを努める。3校の校務分掌については、ある程度統一して協働しやすい組織をつくりたい。「学校支援活動」においては、来年度は特に「図書支援活動」「環境支援活動」の始動に向けた組織づくりを進めたい。「●●●●スタンダード」は、広報活動を工夫し、●●●●学区全体でその存在と価値を共有して、保護者の学校行事への参加を促すために学校からの情報発信を充実させるだけでなく、魅力のある参観内容をさらに工夫したい。
	参観・参加・活動	学校評価アンケート 参観・参加数、活動状況		
	情報発信の充実	学校評価アンケート 学校だより・HPの更新状況		
	家庭(PTA)連携の充実	学校評価アンケート PTA活動		

自己評価結果

評価結果	改善に向けた支援策
●●●●校区の課題を明らかにされ、小学校や中学校だけでなく、●●●●校区の教育機関と連携され、課題解決に向け、着実に一歩ずつ取組が展開されている。特に、あいさつする生徒も増えつつあることが実感される。最大の課題である家庭学習力の向上に向け、あらゆる情報をオープンにされ、開かれた学校づくりが進展していることを実感できる。特に子どもたちの学力についての状況も理解でき、その課題に向け小中3校の教職員が協働で取り組まれていることは、飛躍的な学校づくりに大きな成果を期待できる。	今年度、学校運営協議会が始動し始め、校区の教育の実態がよく理解でき、学校がめざす各取組に対し、支援できる体制づくりを考えてきた。地域・保護者に声かけをするだけでなく、次年度学校支援ボランティア組織がつけられるよう努力していききたい。

学校運営協議会による評価—学校関係者評価



京都市の学校運営協議会の特色

◆学校評価実施報告書（抜粋） 全校で年2回作成

分野	評価項目	評価指標	分析（成果と課題）	改善策
1 確かな学力	基礎・基本の徹底	学校評価アンケート 各種学力調査結果の分析	ここ数年の学力調査の結果からは、少しずつではあるが、着実に子どもたちの学力が向上していることが伺える。その一方で、アンケート結果からは、今までに引き続き「家庭学習習慣」の定着の低さが本校の最も大きな課題の1つとして浮かび上がっている。教職員の「学力向上」に対する意識は高揚しており、「読書活動」「授業改善」「家庭学習課題の工夫」等の具体的な改善策にも取り組んできたが、学校が一丸となってこの課題に取り組めようとする姿勢がより一層求められる。今年度、キャリア教育の観点から「卒業後の進路追跡調査分析」に着手し、分析結果を地域・保護者に情報公開できたことは評価できる。	「家庭学習習慣の定着」については、家庭を巻き込みながら意欲的に学習できる効果的な課題の開発を、学校全体で研究しながら模索していききたい。同時に、生徒や保護者には家庭学習の具体的な取組の方法を説明していききたい。「授業改善」においては、生徒集団全体の育成を目標とした「活用型学習・探究型学習」を展開していききたい。そのような学習活動を展開するために、年間を通して計画的に、教師の力量を高めるための取組を積極的に推進したい。「学力向上」が「荒れない学校づくり・自立的な生徒育成」につながることを共通理解しながら、より一層研修を深め、実践を積み上げていききたい。
	授業改善	学校評価アンケート 授業研修・研究協議		
	家庭学習の充実	学校評価アンケート 課題設定・授業とのリンク		
	読書の習慣化	学校評価アンケート 読書活動		
2 豊かな心	規範意識の向上	学校評価アンケート 学校のまきり	ここ数年のアンケートの結果の比較からは、生徒の規範意識や自己有用感の高まりが確認できる。実際の学校生活の中でも、大半の生徒が学校のまきりを守り、落ち着いた学校生活が展開されている。一方で、「●●●●中学校の生徒であることに誇りが持てる」は3年生とも実現度が低い。ピア・サポート活動も、保幼小との連携の基、円滑に実施されているが、「3年生を学校のリーダーとして育てていくこと」は実現度が低い。3年生をリーダーとした校内の望ましい生徒集団づくりや母校に誇りを持てる活動の展開など、「子どもたちの自尊心を高める」という課題に対応する教育活動が求められる。	生徒指導上の問題行動に対して、小さなことを見逃さずチームで丁寧に対応していく一方で、問題行動の予防教育活動により一層力を入れて取り組んでいきたい。ピアサポート活動では、活動の中で3年生を学校のリーダーとして育成する視点を大切にして取組を進めたい。また、社会から「困っていること」に対してどうサポートできるかを生徒たちが主体的に考えて実践できる場をつくりたい。今年度の「●●●●スタダード「あいさつ」」に対する取組を継続しながら、来年度のスタダード「自ら考えて判断し行動できる生徒の育成」に向けて、学校の教職員が子どもたちに「発達段階に応じた適切な指示」が与えられるように、研修を深め実践していききたい。
	人権教育	学校評価アンケート 人権学習作文		
	豊かな心の育成	学校評価アンケート 道徳授業の充実		
	自己有用感の向上	学校評価アンケート ピアサポート事業の実施		
3 健やかな体	基本的な生活習慣の確立	学校評価アンケート 保健室利用状況	アンケートの結果からは、前回の調査結果と同様に、朝食の摂取および十分な睡眠時間の確保について、学年が上がる毎に「あまりできていない・できていない」と回答する生徒が多くなる。特に睡眠時間については、3年生だけではなく1・2年生についても「できていない」と回答する割合が増加しており、それに対応して、生活の乱れに起因する1・2年生の保健室利用数が増加している。学力向上の阻害要因としても大きく関わっていると考えられるため、子どもたちの基本的な生活習慣の確立を促すための働きかけが必要である。	基本的な生活習慣の確立については、地域懇話会や学校だより・保健だより等を通して、保護者への啓発・発信を努めてきた。このような取組をさらに充実させていくことに加え、「●●●●スタダード（保護者版）」の普及啓発活動を通して、保護者の意識改善につなげたい。また、このような子どもたちの状況を地域の課題としてとらえ、保幼小と連携しながら生活習慣を向上させる取組を進めていきたい。子どもたちに対しては、生徒会保健委員会活動等を通じて、基本的な生活リズムの大切さを学び考える場をつくらせたい。
	体力の向上	学校評価アンケート 体育部活動の参加		
	食育の推進	学校評価アンケート 学校保健委員会		
4 学校・家庭・地域の連携	小中一貫教育の推進	学校評価アンケート 小中分連携する各取組	「開かれた学校づくり」に向けて多様な取組が始動し、大きな一歩を踏み出すことができた。「●●●●学校運営協議会」「学校評価活動」「小中一貫教育の推進」「●●●●スタダード」「卒業後の進路分析調査」等である。これらの取組を丁寧に継続していく一方で、「●●●●スタダード」を今後の学校教育や家庭教育の中で最大限効果的に活用し子どもたちの成長につなげていくことなど、今年度の取組をさらに発展・継続させるための具体的な方策が望まれる。	現在、連携のための数多くの会議や組織がつくられているが、それらをさらに整理・統合し、より有効に機能する組織作りを努める。3校の校務分掌については、ある程度統一して協働しやすい組織をつくりたい。「学校支援活動」においては、来年度は特に「図書支援活動」「環境支援活動」の始動に向けた組織づくりを進めたい。「●●●●スタダード」は、広報活動を工夫し、●●●●学区全体でその存在と価値を共有したい。保護者の学校行事への参加を促すために、学校からの情報発信を充実させるだけでなく、魅力のある参観内容をさらに工夫したい。
	参観・参加・活動	学校評価アンケート 参観・参加数、活動状況		
	情報発信の充実	学校評価アンケート 学校だより・HPの更新状況		
	家庭（PTA）連携の充実	学校評価アンケート PTA活動		

評価結果	改善に向けた支援策
●●●●校区の課題を明らかにされ、小学校や中学校だけでなく、●●●●校区の教育機関と連携され、課題解決に向け、着実に一歩ずつ取組が展開されている。特に、あいさつする生徒も増えつつあることが実感される。最大の課題である家庭教育力の向上に向け、あらゆる情報をオープンにされ、開かれた学校づくりが進展していることを実感できる。特に子どもたちの学力についての状況も理解でき、その課題に向け小中3校の教職員が協働で取り組まれていることは、荒れない学校づくりに大きな成果を期待できる。	今年度、学校運営協議会が始動し始め、校区の教育の実態がよく理解でき、学校がめざす各取組に対し、支援できる体制づくりを考えてきた。地域・保護者に声かけをするだけでなく、次年度学校支援ボランティア組織がつけられるよう努力していききたい。



評価結果

●●●●校区の課題を明らかにされ、小学校や中学校だけでなく、●●●●校区の教育機関と連携され、課題解決に向け、着実に一歩ずつ取組が展開されている。特に、あいさつする生徒も増えつつあることが実感される。最大の課題である家庭教育力の向上に向け、あらゆる情報をオープンにされ、開かれた学校づくりが進展していることを実感できる。特に子どもたちの学力についての状況も理解でき、その課題に向け小中3校の教職員が協働で取り組まれていることは、荒れない学校づくりに大きな成果を期待できる。

改善に向けた支援策

今年度、学校運営協議会が始動し始め、校区の教育の実態がよく理解でき、学校がめざす各取組に対し、支援できる体制づくりを考えてきた。地域・保護者に声かけをするだけでなく、次年度学校支援ボランティア組織がつけられるよう努力していききたい。

分野	評価項目	評価指標	分析（成果と課題）	改善策
4 学校・家庭・地域の連携	参観・参加・活動	学校評価アンケート 参観・参加数、活動状況	「卒業後の進路分析調査」等である。これらの取組を丁寧に継続していく一方で、「●●●●スタダード」を今後の学校教育や家庭教育の中で最大限効果的に活用し子どもたちの成長につなげていくことなど、今年度の取組をさらに発展・継続させるための具体的な方策が望まれる。	学校支援活動」においては、来年度は特に「図書支援活動」「環境支援活動」の始動に向けた組織づくりを進めたい。「●●●●スタダード」は、広報活動を工夫し、●●●●学区全体でその存在と価値を共有したい。保護者の学校行事への参加を促すために、学校からの情報発信を充実させるだけでなく、魅力のある参観内容をさらに工夫したい。
	情報発信の充実	学校評価アンケート 学校だより・HPの更新状況		
	家庭（PTA）連携の充実	学校評価アンケート PTA活動		

評価結果	改善に向けた支援策
●●●●校区の課題を明らかにされ、小学校や中学校だけでなく、●●●●校区の教育機関と連携され、課題解決に向け、着実に一歩ずつ取組が展開されている。特に、あいさつする生徒も増えつつあることが実感される。最大の課題である家庭教育力の向上に向け、あらゆる情報をオープンにされ、開かれた学校づくりが進展していることを実感できる。特に子どもたちの学力についての状況も理解でき、その課題に向け小中3校の教職員が協働で取り組まれていることは、荒れない学校づくりに大きな成果を期待できる。	今年度、学校運営協議会が始動し始め、校区の教育の実態がよく理解でき、学校がめざす各取組に対し、支援できる体制づくりを考えてきた。地域・保護者に声かけをするだけでなく、次年度学校支援ボランティア組織がつけられるよう努力していききたい。

自己評価結果に対する評価

地域・保護者の支援策



京都市の学校運営協議会の特色

◆教員公募制度【学校運営協議会指定校】

【実施手順】

- ①校長が求める人材等を募集要項で提示（HP等）
- ②応募する教諭は、現任校校長の理解を得た上で、志願書及び自己アピール書等を募集校へ提出
- ③校長が書類選考や学校運営協議会委員による面接等により自校に適する人材を教育委員会へ具申
- ④具申をふまえ、教育委員会において最終決定し、内示をもって通知（通常の人事異動）



京都市の学校運営協議会の特色

◆校長の権限と責任の明確化

【校長のリーダーシップによる学校運営】

- ・ 校長からの申請により教育委員会が指定
- ・ 校長の推薦に基づき教育委員会が委員を任命
- ・ 校長は学校運営協議会の委員にならない
- ・ 校長による指定取消の申し出

学校運営についての情報提供や説明に努めたにも関わらず、委員によって基本方針の承認を得られない場合や学校運営に著しい支障を生じている場合に、校長からの指定取消の申し出により、教育委員会は、第三者機関に諮った上で、指定を取り消す。



京都市の学校運営協議会の成果と課題

◆成果

- ・ 人材確保も含めた学校教育活動支援が図られた
- ・ 学校・家庭・地域の連携が深まった
- ・ 保護者・地域の方々の学校への理解が深まった
- ・ 学校評価の充実が図られた
- ・ 地域・保護者の意識の変容や地域にまとまりができた
- ・ 子どもに変容が見られた



京都市の学校運営協議会の成果と課題

◆課題

- ・ 委員やボランティアの人材確保
- ・ 日程や意見調整の困難さ
- ・ 数多く実施している学校支援活動の見直し
- ・ 学校運営協議会の活動への教職員の関わり方や事務負担の軽減
- ・ 委員やボランティアの年齢構成やその次第送り
- ・ 教育課程編成との兼ね合い



京都市の学校運営協議会の今後の方向性

◆学校の応援団

【企画推進委員会による学校支援活動の充実】

コミュニティ・スクールは子どもにかえる取組に！

学校・家庭・地域それぞれが、当事者意識を持つ中で、「コミュニティ・スクールは子どもにかえる取組」という理念を大切に、その充実を図る。

学校支援活動を学校理解に！

「学校の応援団」としての活動を行い、地域、保護者の方々が学校支援活動を行うことによって、学校理解につなげていく。



京都市の学校運営協議会の今後の方向性

◆辛口の友人（クリティカルフレンド）

【理事会機能の充実】

I. 学校運営に関する基本的な方針の承認

II. 学校関係者評価の一層の充実

「熟議」の活用！

「熟議」を通して、学校運営のPDCAに地域（学校運営協議会委員）が、「辛口の友人（クリティカルフレンド）」として参画する仕組みとして一層の充実を図る。



京都市の学校運営協議会の今後の方向性

◆学校運営協議会の戦略的活用

- ・地域とともに学校の課題解決を図る
- ・学校運営協議会を設置する目的の明確化

例) 地域の人材の発掘
 小中一貫のツール
 家庭学習の充実

学校（教職員全体）と地域の課題意識の共有



**校長のマネジメントによる
 「地域とともにある学校づくり」**



京都市の学校運営協議会の今後の方向性

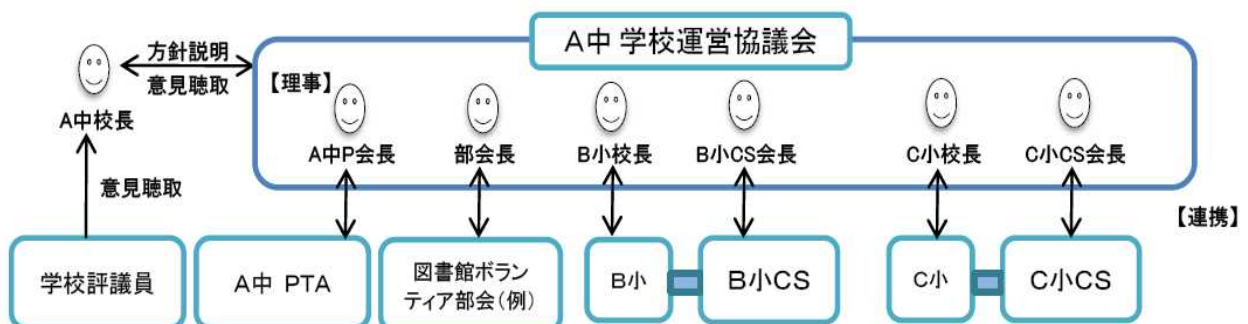
◆小中一貫による学校運営協議会

- ・学校運営協議会の代表者会議の設置

①小中一貫推進型 I

【イメージ】

★A中学校 学校運営協議会(小学校CS代表者会議的位置づけも含めて)





京都市の学校運営協議会の今後の方向性

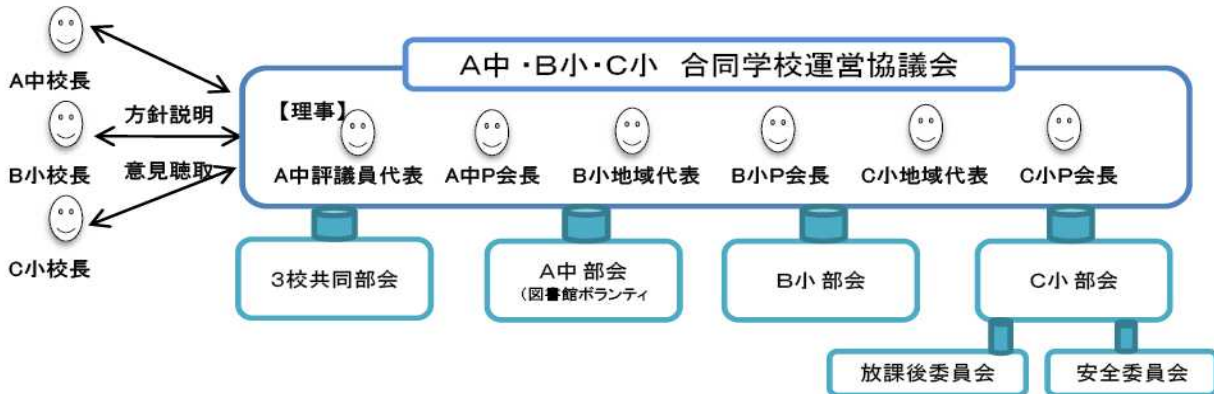
◆小中一貫による学校運営協議会

・小中合同の学校運営協議会の設置

②小中一貫推進型Ⅱ

【イメージ】

★A中・B小・C小 一体型学校運営協議会



京都市の学校運営協議会の今後の方向性

◆小中一貫による学校運営協議会

【参考】小中一貫教育全国サミット in 京都

日時：平成25年1月18日(金)午前10時から（予定）

※キックオフイベント（京都大原学院）は17日午後。

場所：東山開晴館，総合教育センター

※当日午後には、小中一貫による学校運営協議会に関する分科会も開催予定です。

※詳しくは、[京都市教育委員会 学校指導課](#) を検索！



本件の問い合わせ先

◆京都市教育委員会指導部学校指導課

小中一貫教育・学校運営企画担当

◆電話 075-222-3801

◆ファックス 075-231-3117

◆担当業務

- ・小中一貫教育
- ・学力向上（学力調査含む）
- ・学校運営協議会
- ・学校評価 等

